

ロキソニン[®]PROフィジカル

2025年9月に第一三共ヘルスケアから発売された**第1類医薬品**になります。9月上旬には発売開始されていたようなのですが、この薬の存在を知ったのが9月末でした。その間の9月23日に富山県にある立山登山を旧職場の医療機関の山の会(医師、薬剤師、ナース、介護関係者、医療事務等で構成)に参加した際に遭遇した経験と合致していたので記事にしてみました。

1) 旧職場の山の会の立山(雄山)登山の経緯

山の会とは言え退職者も多く高齢者が多くなってしまいましたが当日は8名でバテバテの人から元気な人もつつ無事に全員立山の雄山(3003m)山頂に登頂できました。しかし下山中に一人のメンバーがふくらはぎに痙攣(こむら返り)を起こして動けなくなりました。持病のある人も多く山で役立つような処方薬の残薬を持参してくるメンバーもいます。特に芍薬甘草湯エキス(68番)が登山の際に役立つので足が攣った際には「誰か68番持ってない?」と言うのが定番です。

■一般用医薬品ではコムレケア[®]が芍薬甘草湯エキス剤の満量処方になります(本ニュース469号)。

今回も一人のメンバーが68番を持っており1包を服用したところ比較的直ぐに効果が出て下り始めたのですがいつもと違いすぐにこむら返りを起こし動けなくなりました。今回は痛みも強いようです。

立山に登った人は分かると思いますが一ノ越と呼ばれる山小屋もある狭い平地から先の雄山山頂までは初心者が登れるとは言いながら急な岩登りになります。その下りになるわけで途中での停滞は後続の登山者を待たせてしまいます。なんとかメンバーを安全な場所に待機させ後続登山者を下に誘導しながら対応することになりました。とにかく痛みが主訴となってきたというのでロキソニンが良いだろうとなり本人の残薬のロキソニンを飲ませようとしたのですが足場の悪いリュックの中にあり中々とりだせず結局私が直ぐ取り出せたので1錠を服用してもらいました。すると間もなく本人曰くスーと楽になりゆっくり状態から徐々にいつものペースに戻っていました。高齢者が薬に頼って登山をするのはいかがなものか?という疑問はありつつも無事に下山できて良かったという顛末でした。

2) 芍薬甘草湯の速効性について

本漢方薬の速効性については本ニュースの469号(2023年6月)からの引用になりますが、

- (1) 中医処方解説(山本巖ら監修)では痙攣性疼痛に対して即効的で強い抑制効果を示す。
- (2) EBM漢方(寺澤捷年ら)から透析患者の筋痙攣に用いたところ疼痛消失までの平均時間は5.4分±3.9分だった。
- (3) 柴原富山大学教授講演後の質疑応答から効果発現は15分程度と早い芍薬の主成分のペオニフロリンの血中出現は服用後30分とされるので速効性には関与せず別の成分の関与が推測される。
- (4) ツムラによる某薬局内説明会では服用後数分後に血中に現れる成分が確認されているが速効性との因果関係は不明(2016年時の話題で現時点での詳細は確認していない)。
- (5) 私自身が登山中に足痙攣を起こした山仲間が服用5分前後で回復するのを何度も目にしている事実(私自身は動けなくなるほどの痙攣を起こしたことがないので実体験はない)。

以上から芍薬甘草湯は痙攣性疼痛に速効性があるのは事実のようなのです。

今回は芍薬甘草湯だけでは痛みが治まらないというのでロキソニン錠を追加しましたがロキソニ

ンの最高血中濃度到達時間は未変化体が約30分、活性代謝物が約50分なので鎮痛効果が出るとしても最高血中濃度到達前の服用後15分程度ではないかと思っていましたが今回は想定より効果発現は早い印象でした。血中濃度半減期はいずれも1時間15分程度で下山目的地のバス停までは約1時間なので十分な効果はあったようです。もっともその時までには痛みの原因となっていた筋痙攣も治まり痛みの継続なく何ごとも無かったように下山できたと推測されます。

その時に薬剤師の私は「**芍薬甘草湯による速効性とロキソニンによる少し遅れてくる鎮痛作用が効いたのだらう**」と解説したものです。

3) ロキソニン®PROフィジカルとは

本ニュース556号(2025年3月)でも6種類のロキソニンのラインナップを紹介しましたが第一三共がまたまたロキソニン関連一般用医薬品を販売して収益アップにきたなと思ったものです。次に本製品の1回量(2錠)の成分量を示してみます。

ロキソプロフェン	60mg	(1回量は医療用と同じ)
シャクヤク(芍薬)エキス	36mg	(原生薬252mg相当量)
カンゾウ(甘草)エキス	50.4mg	(原生薬252mg相当量)
酸化マグネシウム	33.3mg	

これまでもロキソニンSプラスとしてロキソプロフェンに酸化マグネシウムを加えた薬、ロキソニンSプレミアムファインとしてシャクヤクエキスを加えて全4成分とした薬はありましたが、今回の製品は**ロキソニンSプラスに芍薬甘草湯エキスを配合**した製品となり、今回私が登山中に思い描いた配合剤が販売されており私のアイデアが盗まれたのかと思いましたが製品化は随分前に決定されていたわけで私の発想がもう数年早ければ特許料?が発生していたかもしれません。

さてロキソニンPROフィジカルの1回分のシャクヤクとカンゾウエキス量をツムラの芍薬甘草湯エキスとで比較してみましょう。ツムラ芍薬甘草湯エキスの1回服用分は原生薬量として芍薬2g、甘草2gから抽出された0.83gで、そこから均等に抽出されたとするとそれぞれ1回分が0.42gずつになります(下表)。つまりロキソニンPROフィジカルには芍薬甘草湯エキスの**10分の1**程度のエキス量しか入っていないわけです。いつもの疑問になりますが「これではせっかく追加した芍薬甘草湯部分が効かないのではないか?ロキソニンの薬効が際立っているだけではないのか?」

	芍薬エキス量	甘草エキス量
ロキソニンPROフィジカル	36.0mg	50.4mg
芍薬甘草湯エキス(ツムラ)	420mg	420mg
対ツムラのエキス量比率	8.6%	12.0%

さて適応症は下記になります。

腰痛・肩こり痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・打撲痛・骨折痛・捻挫痛・外傷痛・頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛の鎮痛, 悪寒・発熱時の解熱

☛この適応症は他の一般用のロキソニン錠シリーズ(ロキソニン総合かぜ薬を除く)と全く同じになります。個人的には**筋肉痙攣(こむら返り)**の適応も入れて欲しいところです。

また本剤の特徴としては次が添付文書に記載されています。

腰や肩などの身体の痛みのメカニズムに着目した成分をダブル配合(シャクヤク乾燥エキス, カンゾウ乾燥エキス)。筋肉の緊張や炎症を伴う痛みを緩和します。

芍薬や甘草の成分がどこまで身体の痛みのメカニズムに関与しているのか私には詳細が分かりませんが少なくとも芍薬甘草湯の効果を期待しての配合とすれば繰り返しになりますが**10分の1量**でどこまで、私が期待する**筋肉痙攣の即効効果がでるか**が疑問です。(終わり)